

誰でも リスク マネジメント

よくわかる
誰もが必要な
リスク対応
入門

個人編

社会保険労務士・経営コンサルタント

押本靖貴

Oshimoto Yasuki

『Boon-gate』のPDF作品を ご覧いただく前に…

操作について

- 作品の多くは「もくじ」のページで、進みたいページの項目を押せば、そのページまでジャンプし、また、ジャンプしたページのタイトルを押せば、目次のページに戻るよう設定しております。
- 直前に開いていたページに戻るには、画面上の「◀」ボタンで、直前に開いていたページに戻ります。

読み方いろいろ

- 通常は画面の「倍率」が100%前後になっていますが、「倍率」を150%まで高めると文字が読みやすい大きさになります。
- 通常は「見開きページ」で設定されていますが、「単一ページ」にすると読みやすく感じます。
- 読み進めるときは、「十字キー」を使用すると手軽です。
- 「サムネイル機能」を使用して読み進めると、2～3頁からとばし読みするのに便利です。
- 頁を「回転」させることが可能です。地図などを拡大して見るときに便利です。

[http://www.bungeisha.com/PDF is/05-top1.html](http://www.bungeisha.com/PDF_is/05-top1.html) でPDF作品についての説明を致しております。ご参照ください。

誰でも リスク マネジメント

よくわかる
誰もが必要な
リスク対応
入門

個人編

社会保険労務士・経営コンサルタント

押本靖貴

Oshimoto Yasuki

文芸社

誰でもリスクマネジメント
個人編
◎ 目 次

プロローグ 8

個人のリスクマネジメント／RMとは／変化(苦境)への対応／RM入門

第1章 個人のRM 19

組織への依存／RMと日本人／自らをマネジメント／年代別のRM／
将来設計とRM／女性のRM

第2章 社会の変化 37

世の中で起きていること／未来／産業と労働者のシフト／終身雇用
志向のリスク／少子高齢社会から人口減少社会へ／リスクの社会化の
崩壊

第3章 RMの基本 57

リスクとRM／RMの行動基準／リスクの目利き／デジタルな検討と
判断／リスク対応方法の選択肢／誰でもRM／RMのための三つのバ
ランス／不安とRMの違い／フレームに対するRM

第4章 仕事と収入 81

○リスク・○リターンからの変化／個人と企業の新しい関係／終身雇用の崩壊／雇用不安／人材流動化／早期退職／会員のRM／転職するスキル／企業倒産／成果主義／個人による差異創出の時代／RMとしての転職／再スタートのRM／フリーターのRM／RMの視点 フリーターの場合／社会保障の面から見たフリーターのリスク／創業／後継者の確保と育成／副業

第5章 老後の保障 135

老後の保障の基本的考え方／空白の五年間／公的年金のしくみ／公的年金に関する知識不足と誤解／年金RMのポイント／年金受給への不安／退職後の生活資金リスク／年金財政の赤字／公的年金の信頼感喪失／行政の信頼失墜／保険料の使途への不信／特殊法人の病理／将来の年金額／重くなる社会保険料／国民年金保険料の未納／保険料免除／公的年金の標準モデル／公的年金制度改革／女性の年金／不信や不満は正しいか／それでも公的年金／企業年金の危機／退職金

第6章 住宅と生命保険

195

土地本位制の崩壊／住宅ローン／若い世代のマイホーム購入／不動産投資／マイホームと賃貸住宅の本質的な違い／分散投資／マンション建替え／生命保険／生命保険の見直し

第7章 家族と教育

223

日本の教育／私立学校と公立学校／教育費／離婚／親の介護／高齢者居住のRM／相続／個人保証のRM

エピローグ

248

RMのまとめ／恐竜のような公的年金／真のユーモア

リスクマネジメントのための主な相談窓口

254

主な参考文献

259

誰でもリスクマネジメント 個人編

よくわかる誰もが必要なリスク対応入門

プロローグ

挙げていくときりがないほど、日本は「まさか」が「まさか」でなくなってしまう社会になりました。ひとつの企業に定年まで安穩と勤めて、何も考えなくとも退職金と年金によって老後は安泰というような人生はもはや存在しないのかもしれないかもしれません。

ひとりひとりが、将来どのような生活をしていきたいのか、どのような人生を送りたいのか、そして、そのために今何をなすべきか、真剣に考える時代になりました。どう転んでも「自分は自分で守るしかない」という世の中の流れは変わらないと覚悟を決めましょう。そして、「自分の人生は自分が作る」という気概を持ちましょう。

未来は未知の世界

未来は未知の世界です。可能性に対する「期待」と「リスク」が半々の世界ともいえます。最近では想像もなかったことが起きています。銀行がつぶれる、金利がゼロになる、物価が急激に下がる（いわゆるデフレ）などです。

会社員が気楽な稼業ではなくなりました。いつリストラがあるかわかりません。国は構造改革を進め、国民はその犠牲に耐えています。

住宅ローンを抱えてなんとかマイホームを持てたとします。ところが、価格が年々一〇%下があれば、一〇年でタダ同然になってしまいます。現実にはその下降曲線をたどっています。

金利はすでにタダ同然になっています。今ではタダで預けてその元本（銀行のペイオフ）を心配する時代です。株は一〇〇〇円で買ったものが今では一〇〇円以下になっているものがざらにあります。

「寄らば大樹」は過去の言葉

「寄らば大樹」は過去の言葉となり、大企業でも当たり前のように倒産していく時代になりました。国や自治体も財政破綻の恐れができてきています。

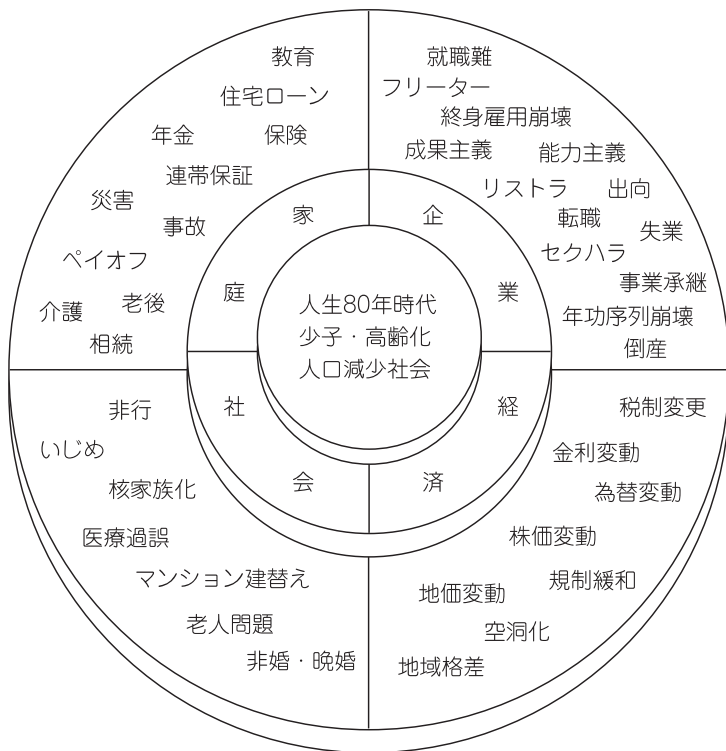
これまでのように、企業や国といった「大きな組織」に頼ることはできなくなりました。「個人」が自分を頼りに、自分を磨いて生きていく時代になったといえます。そのうえで、個人の手には負えないリスクを企業や国が負うことになるのです。

個人のリスクマネジメント

日本は壊れ始めているのかもしれませんが。その中で自分を守るのは自分自身です。

近頃、「リスクマネジメント」という言葉を頻繁に聞くようになりました。「リスク」とはひと

図1 個人のリスク



ことでは「不確実性」です。そして、企業などの組織が自らの経営上のリスクをいかに把握し、それをいかに管理して損失を防ぐか、ということ。「リスクマネジメント」と呼んでいました。それを個人のレベルで考えてみようというのが、この本の主旨です。

現代社会においてリスクマネジメントは重要です。リスクのない環境は存在しません。人生においても身近にあるさまざまなリスクにきちんと向き合うことが大切です。

人生八〇年

日本女性の平均寿命は八五歳を超えました。男性は七八歳で上昇傾向が続いています。まさに「人生八〇年時代」です。長い人生を無事に過ごしていくためには、リスクと上手な付き合い方をすることが大切です。

制度や経済は「変わる」ということを認識しましょう。長い人生では将来のことはわかりません。「自己責任の時代」ともいわれています。いたずらに不安を募らせるばかりでは、何も始まりません。豊かな人生には何が必要なかという情報や知識も必要です。この本がその入口になれば幸いです。

人生のリスクマネジメント

今まで日本では、リスクを社会全体で分担しようという政策を進めてきました。「リスクの社

「会化」です。しかし、時代は大きく変化しようとしています。

長い人生を乗り切るためには、時代の変化とともに、社会のリスクや自らの人生のリスクを個人で再認識し、想定し、対応を考えることが大切です。ひとつひとつのリスクと積極的にかかわることこそが、人生や家族の活性化につながります。

人生の諸問題

人は成長するにつれて、それまでに経験したことのないさまざまな問題が生じてきます。

会社員にとっては、社内における自分の可能性の限界が見えるときが来るかもしれません。

若い世代にとっては、結婚するのか、生涯ひとり暮らしなのか、正社員として働くのか、フリーターとして働くのか、などの分岐点が必ずやってきます。

子供がいる人は、受験、教育費、いじめ、登校拒否、非行といった問題に取り組むことになるかもしれません。

恋愛の季節が通り過ぎ、子育ての時期をくぐり抜けた夫婦にとっては、若い頃とは違った関係を作り直すときが来るでしょう。それに失敗すれば、離婚、別居といった問題も起きてきます。年をとった両親との関係の見直し、具体的には介護をどうするかという問題も生じてきます。いずれ自分自身も年をとって、老後の生活にも気を使わなくてはならなくなります。

これらのさまざまな問題（リスク）に対してリスクマネジメントを行なうわけですが、その基盤を築いておきましょう。自分のリスクマネジメントは「自分の責任で自分がやる」という習慣を身につけましょう。誰のせいにもしない。自分を真に救えるのは自分だけだという強い気持ちを持ってリスクマネジメントしましょう。

RMとは

「RM」とは、「リスクマネジメント」の頭文字をとった略称です。簡単にいうと「個人や企業が破綻を回避するために、自らを取り巻くリスクを『認識・想定』し、その影響を『予防』あるいは『管理』しようとすること」です。

リスクとは

リスクは「不確実性」、一般には「予測できない損失」を指しています。この本では将来を見通して「予測できる損失」も含めて、広い意味でリスクをとらえています。そして、その広い意味でのリスクをマネジメントしようとしています。

また、リスクとは、一般的には「クライシス」に比較して次の解釈がされています。

- ① クライシス（危機） ≡ 事故発生の可能性、被害の大きいもの

② リスク（危険） ≡ 「不測の損失」 ≡ 事故発生の可能性＋経済活動の不確実性

この本では、リスクを「目的達成を阻害する要因全般」と広くとらえています。ですから、「予測できる損失」もリスクに加えています。個人にとっては、予測できる損失も予測しなければ不測の損失になるといえるからです。

「リスク」というとむつかしく考えがちですが、常に身近なところに身近な形で存在しています。たとえば、商売をやっている場合、売上代金が回収できるかどうかが確実ではないことがあります。「代金回収リスク」です。そこで、代金が確実に回収できる方法を考えます。

① 代金引換えて商品を渡すとか、② クレジットカードを使うとか、さらに、③ 収入が少ない顧客には与信限度額を低くするか、そういうごく当たり前のようにやっていることも、RMなのです。

RMを意識しているか否かは別として、個人であれば、人生価値を最大化するためのRM、企業であれば、企業価値を最大化するためのRMを当たり前に行っているはずで

RMへの誤解

一般的に、RMは誤って解釈されることが多いようです。その代表的な例は次のとおりです。

① リスクマネジメント ≡ クライシスマネジメント（緊急災害管理）

② リスクマネジメント ≡ 損害保険などの活用

③ リスクマネジメント＝コンプライアンス（法令などの遵守）

この本でのリスクとRM

この本では、リスクもRMも広い意味でとらえていきます。個人生活において「身近」に生じるさまざまなリスクに対するRMを対象にしています。

また、この本では、リスクのうち主に「経済活動の不確実性」についてとりあげていきます。「事故発生の可能性」については、現代では損害保険制度を活用した方法でRMを行なうケースが多いからです。これに対して、「経済活動の不確実性」については、リスクを保有しながら自己判断でRMを行なっているケースがまだまだ多いと思われるからです。

多くの日本人は、好むと好まざるとにかかわらず、少子高齢化にあえぐ二一世紀前半の日本を生き抜いていくこととなります。企業や国にしがみつかなくても自分の生活を守ることのできるRM術を獲得しましょう。

変化（苦境）への対応

RMとは、「変化（苦境）への対応」です。天気がよくて今は歩きやすい道でも、雨が降ってぬかるみだらけの道になったらどうするか、を常に考えておくことです。

これからの低成長時代に人生を活性化するのは「RM力」いいかえれば「変わる力」です。そのエネルギーの源は、社会や周辺に現われているリスクを自分事として受けとめる姿勢です。こうしたリスクを何とかしたいという発心はっしんです。

同じリスクでも人によって受けとめ方が違い、それがRM力ひいては人生の差につながります。

やる・やらない

日本には、「結果よければすべてよし」の風潮があります。その風潮の上に立って、個人も企業も、余裕がない、やり方がわからない、と言いつつ訳をみつけてRMにあまり関心を持っていませんでした。

RMは、「できる・できない」で語るのではなく「やる・やらない」で考えるべきことです。「やらない」なら「それなりの覚悟をする」こと、「やる」と決めたら「どうやったらできるかを考え抜く」ことが大切ではないでしょうか。

RMでは、最低限「やる・やらない」を考え、やるなら「何をやるのか」という「判断（対応方法の選択）」までは行ないます。リスクをあいまいなまま放っておかないということです。

さまざまな問題（リスク）に対して、RMの基準を築いておき、自分のRMは「自分の責任で自分がやる」という習慣を身につけましょう。

リスクのない環境は存在しないことを前提に、むしろリスクと積極的にかかわることこそがよりよい人生を送ることにつながります。

この本は、RMの考え方の基本を示し、人生に欠かせない意識のあり方を盛り込んだRM入門書です。とにかく「わかりやすく、読みやすく」をモットーにしています。なるべく専門用語を使わず、数式なども極力入れず、RMに関連した基本的な考え方を示しました。

ですから、むつかしいことは書いてありません。「ごく当たり前のことしか書いていない」と、不満を感じる方もいらっしゃるかもしれません。しかし、「当たり前前のができていないか」という視点がRMのスタートなのです。

自由社会

私たちは自由社会に生きていて、自分の好きな人生を選択する権利を保障されています。そして、市場経済の下では、自らの経済的基盤に応じて、自己責任で人生を営むのが原則です。

企業も国も将来の私たちの生活を守ってくれなくなりました。私たち「誰でも」RMが必要な理由です。

生きていくうえでの座標軸

人生も世の中も絶えず変化し、また情報もあふれ返っています。変化は大きく激しく、どうすればいいのか途方に暮れることもあるでしょう。

そんなときに人を支えるのは、その人なりの哲学、生きていくうえでの「座標軸」です。ひとりひとりが自問自答して真剣に考え作り上げ、生き方の中心にきちんと据えておくものです。自分の身に何が起きても、自信を持って判断できるRMの基準にもなります。

本当のRM

今は多くの人が「カーナビ」を求めています。方法を学ぶことよりも、答えだけを求めています。そして、カーナビの指示どおりに走れることを「実力」だと勘違いするようになっていきます。本当のRMとは、仕事でも人生でも「落着いてまわりを見渡して自分の位置や置かれている状況を把握し、自分が目指す方向をはっきりさせ、将来のリスクを予測し、注意深く変化をみきわめながら進む」ことです。

第1章 個人のRM

過去の延長線上でものを考えるようになり、勝ち組に残ることだけを目指す価値観にしがみついていると、自分で「自分の幅」を限定してしまうことが多くなります。RMの選択肢が少なくなります。自分が破綻してしまう可能性が高くなります。

人生の曲がり角はいくつかあります。大切なのは曲がり角にさしかかっていることを認識できるか、理解できるかではないでしょうか。

「今まで」とは違う「これから」を模索できるRM力をつけておきましょう。それぞれの年代で次の人生に向かってゆっくりと、しかし確実に、舵を切っていきましょう。

社会・経済状況は悪化しています。先の見通しが立ちません。そして私たちは、それは世の中が悪いのだと考えようとしています。

個人も企業も、自分たちはやるべきことはやった、変わってしまった世の中が問題なのだと言いつけようとしています。それでいいのでしょうか。世界規模でさまざまな枠組みが変わっている時代です。ですから、問題はすべて外にありコントロールできないとする考え方は誤りであり、RMの大敵といえます。

組織への依存

ひとつの組織に自分を丸投げし依存していれば一生安泰であると考え、逆にいうと、そこから外れたら一生不幸であることになります。しかし今やどの組織も、完璧なままで存続し続けることはあり得ない時代です。企業の栄華は人の寿命よりも短いのです。

視点移動

「組織にずっと雇われていれば安全」という安易な固定観念を捨てるのが、個人のRMの出発点ではないでしょうか。そして、日本が活性化できないのは、日本人ひとりひとりの中にある固

定観念が強過ぎるからなのではないでしょうか。優れた人材の多くが、安定性と世間体を重視し大企業や公的機関などへの就職を選ぶような社会では、創業精神は広がりません。

固定観念にとらわれずに、視点を変えてみましょう。視点や立場を変えることによって、評価や判断が大きく変わってきます。「視点移動」はRMのために大切な要素です。

マニュアル依存からRM志向へ

組織の中でも社会の中でもマニュアル化が進んでいます。決まったとおりにやりなさいというのが、マニュアル化です。ここでは、個人の判断は求められずに、うまくいく方法だけが取り上げられています。

こうしたマニュアル化が個人から「自ら考える力」と「RM意識」をなくしているような気がします。マニュアルと違ったことが起こったときに、そのことが大事かどうかの判断がなければ、RMはスタートしません。

どんな損失が起こりうるかを自ら考え判断し、その原因を予防・管理しようとするのがRMです。

マニュアル化によって作業の効率化がどんなに進んでも、現場での判断力が低下したり、自分が担当していること以外に無関心になっていてはRMは機能してはいないといえます。

個人の時代

自分を幸せにする生き方は、もう自分にしか判断できないと腹をくくりましょう。人生のモデル設計などはもうないので。正しいことはひとつだと声高にいう人は、ずっと目が覚めない人だと思いませんか。人生はそんなに単純なものではありません。自分の人生に起こる出来事を挫折と呼ぶかどうかまで、自分で決める「個人の時代」なのです。

自分以外の何か、たとえば企業や学校など大きな組織に依存する気持ちが悪化するとき、個人はいかに空虚になるかを知らしましょう。

RMと日本人

戦争、テロ、世界的大企業の不祥事による破綻などが頻発し、まさに世界的にRMの時代といえます。二一世紀にはどんなリスクがあるのか、多くの人はある程度知っていることと思います。親の世代のリストラを見ている若い世代は、企業で苦労しても報われないかもしれないことを知っています。「どこでもいいから就社する」ことは、人生を台無しにしかねないリスクであることを認識し始めています。

今の若い世代は、「将来は今よりよくはならない」ということを前提に、社会と向き合った最初の世代なのかもしれません。

ですから、企業に頼らないで生きていけるようにスキルや資格を身につける、もしくはとりあえずフリーターになる、といったさまざまな選択肢が浮かび上がっているのでしょうか。

現代の日本人

しかし、日本では、リスクを知らながら、非常事態にならない限り、今の生活を犠牲にしないでRMしようとは思わない人が多いのではないのでしょうか。

このままでいいはずがないという危機感と、まだ大丈夫だろうというぬるま湯につかった感覚と、両方を持っているのが現代の日本人でしょう。

平成不況

個人は、雇用や社会保障など将来の生活に対する不安のため、防衛意識から消費を抑えています。企業は、利益確保と組織存続のため、事業と人員のリストラを進めています。政府は、財政再建のため、税収が伸び悩みの中で財政赤字を心配しつつ景気対策を行なおうとしています。

それぞれの主体が常識的には理にかなった行動をとりながら、お互いにマイナス効果を波及し合っています。全体的なRMが機能していない状態といえます。

途中省略

本編はダウンロード時間短縮のため省略版でお届けしています。
途中省略なしの完全版をご希望の方は製品版をご「購読」ください。

プロフィール

押本 靖貴 (おしもと やすき)

1957年（昭和32年）千葉県安房郡白浜町生まれ。

早稲田大学商学部卒業後、神奈川県住宅供給公社に入社。民間の大手不動産販売会社への出向を経て、事業企画・販売企画を担当後、経営企画室長として公社改革計画などの策定に関与。2003年4月、横浜市に押本経営労務事務所を開設し、社会保険労務士・経営コンサルタントとして独立開業。他に、リスクマネジメント協会会員（プランナー・オブ・リスクマネジメント）、宅地建物取引主任者資格。

Eメール：oshi@m2.pbc.ne.jp

ホームページ：<http://www1.pbc.ne.jp/users/oshimoto/>

誰でもリスクマネジメント 個人編

よくわかる誰が必要なリスク対応入門

2004年4月15日 電子出版発行

著者 押本 靖貴

発行者 瓜谷 網延

発行所 株式会社文芸社

〒160-0022 東京都新宿区新宿1-10-1

電話 03-5369-3060（編集）

03-5369-2299（販売）

<http://www.boon-gate.com>

© Yasuki Oshimoto 2004 Corded in Japan

ISBN4-8355-7121-5 C0036

（文芸社発行の通常書籍（紙の本）については、全国書店でお尋ねいただくか、「文芸社ON-LINE」サイト、<http://www.bungeisha.co.jp> を御参照ください。）

新 04.03.16 Y.H.